

西洋衣食住
完

洋学文庫

文庫 8

C 175



文庫 8
C 175

西洋衣食住

題言

晴信氏御為堂

慶應義塾
蔵印

近來在在西洋服と用白紙者多
多一其因其外之佛小器も便利あり
此と學々くしふ處々決はるる小在人
或は彼國衣服の製法を傳せしむ
譬へは暑中も棉入と着襦袢の
代りも好織と用ゆる等の皆善也

蔵印

西洋衣食住
題言

41-7110

わくしほ今あめのわ冊のく彼國衣
表を一ト起りや亦 希く合書
の徒道其履をのるは作とすゆ
其國記一其用法と解と新
や掲門のくく小あまの美

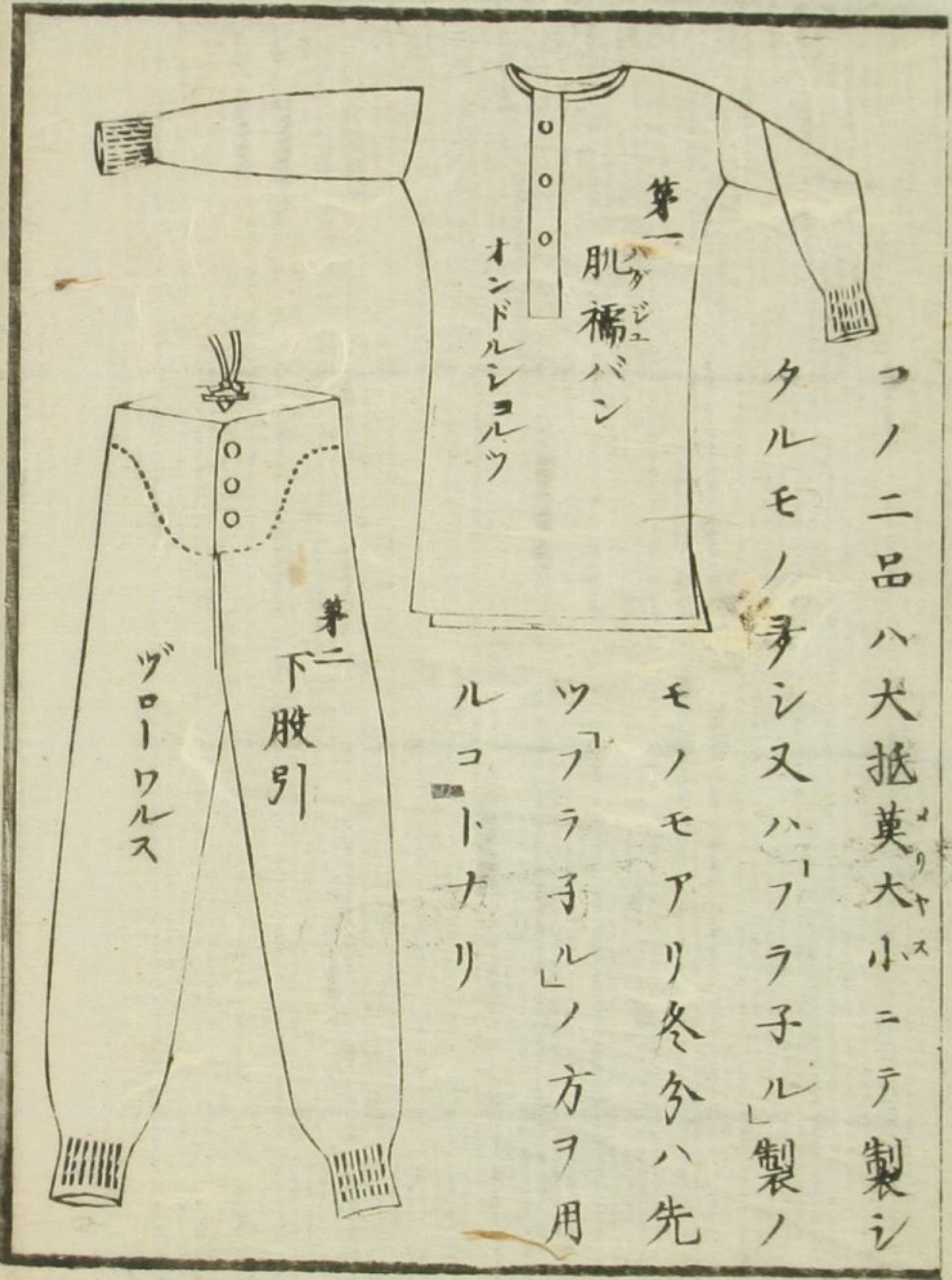
交在三年
丁卯春冬

片山淳之助誌



衣之部

西洋衣食住

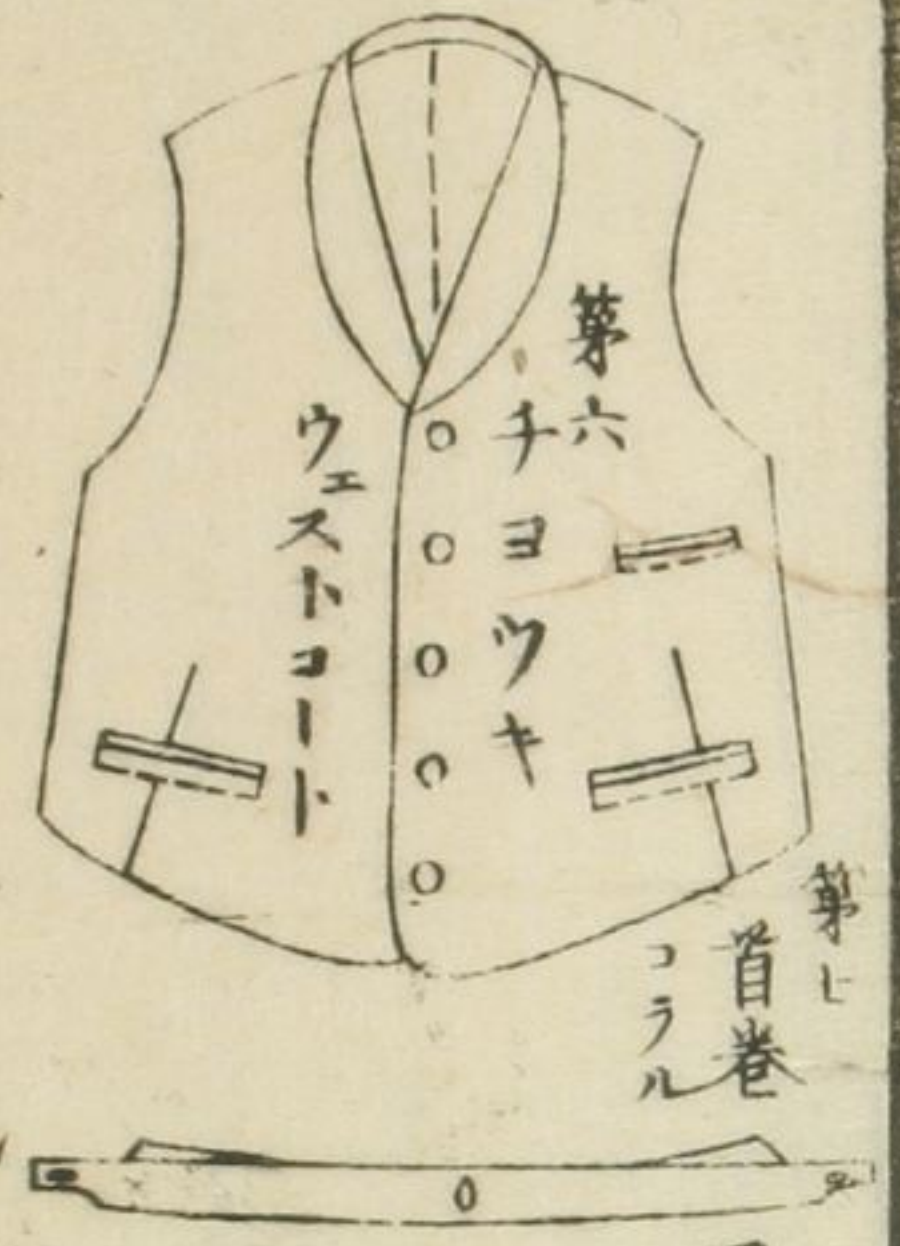
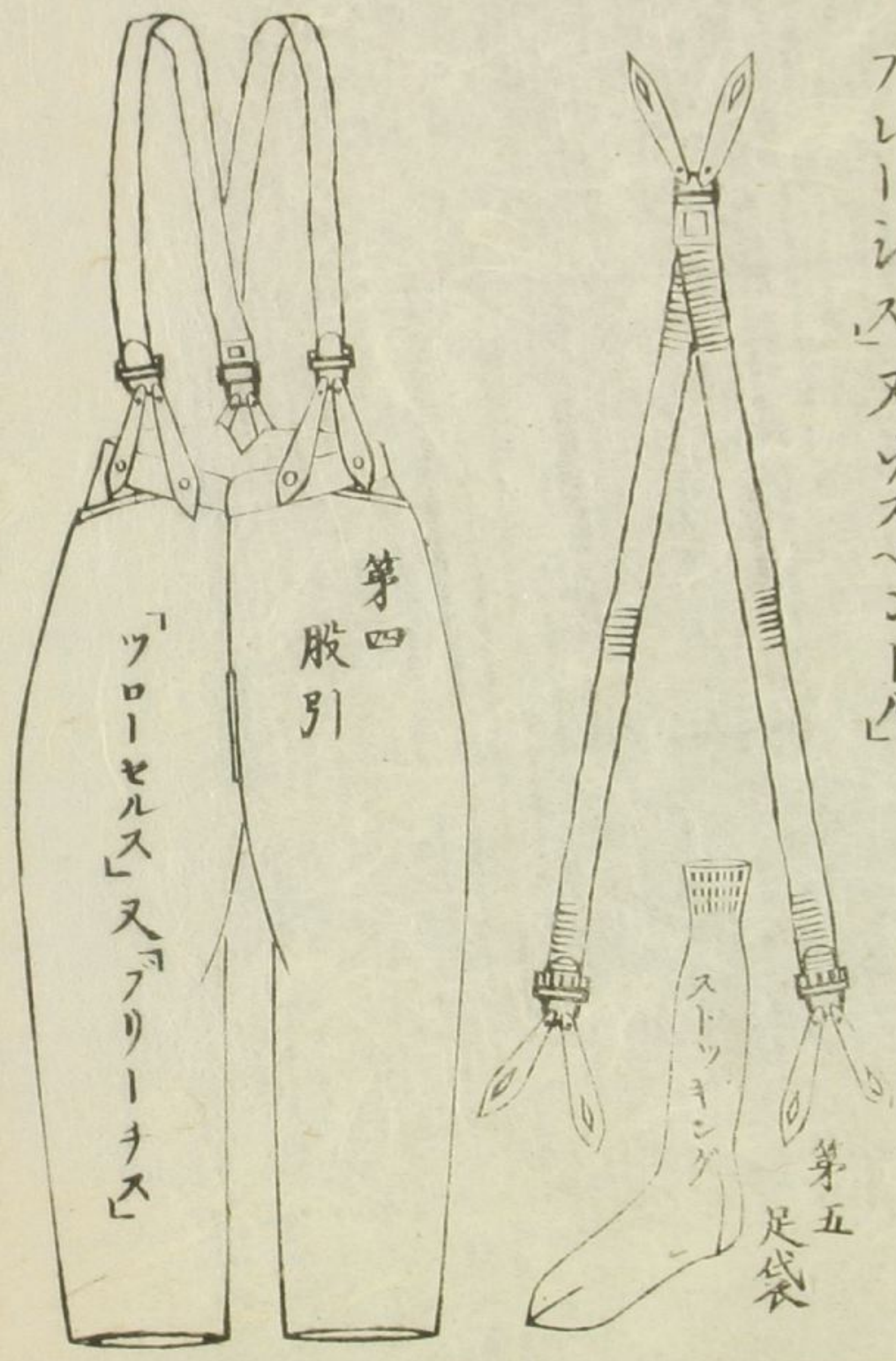


コノ二品ハ大抵莫モ大小キョウニテ製シ
タルモノヲシ又ハ「ブラ子ル」製ノ
モノモアリ冬分ハ先
ツ「ブラ子ル」ノ方ヲ用
ルコトナリ



シヨルツノ方ハ洒カサシ金巾又ア
サニテ製シ平生用ユルモノ
ナリ「ブラ子ル」
ルツハ▲
旅中マタハ
船中ナドニ
用ユ但シ毛織
ナレハ垢カサ付クコトナシ

ズボンツリ
ブレゼス又「ウスペンドル」

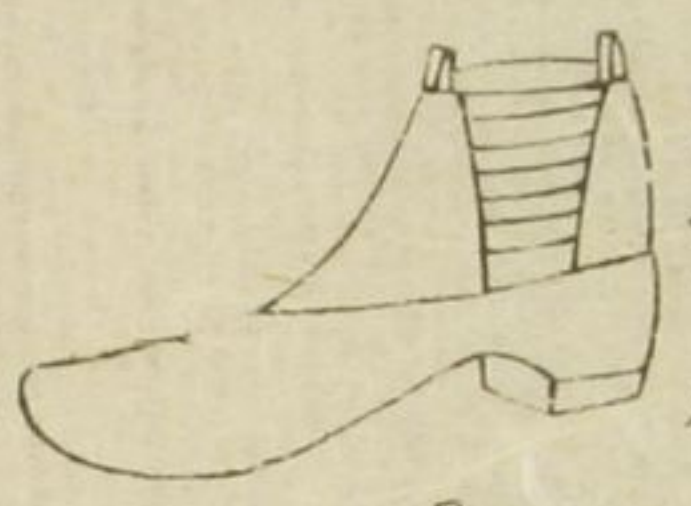


首巻ハ麻ナリ又ハ紙ニテ製シタルモアリ紙
 製ハ價モ安ケレト一日用レハ直ニ取捨ル
 ナリ西洋服ニハ必此首巻ヲ欠ヘカラズ西洋
 ニテ首巻ナキ物ヲ日本ニテ譬ヘハ半襟ノナ
 キ襦袢ヲ著ルガ如シ誠ニ不都合ナリ

第八

沓

シューズ



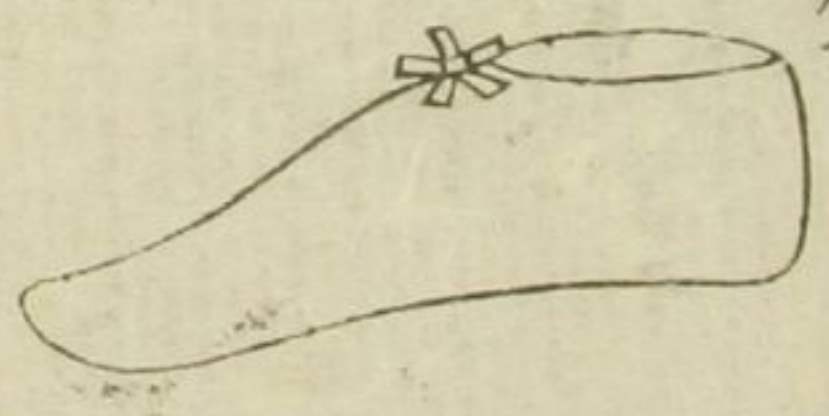
長沓

ブーツ



上沓

スリッパ



沓籠



常ノ沓ハ日本ニテ雪駄ノ代ナリ長沓ハ雨天ノ時下駄ノ代リニ用ヒ又ハ馬上ニ用ユ上沓ハ家ノ内ニテ上草履同様ノ所ニ用ユ沓籠ハ沓ヲハクトキ足ノ踵ニ当テ滑ラヌモトナリ

割羽織ハ身分アル人ノ常

服ナリ丸羽織ハ一體職

人ナドノ衣服ナレト

モ高貴ノ人ニテモ

自宅ニ居ルトキカ又

ハ外へ出ルトキニモ著

ルコトアリ又下人トテモワリ羽織ヲ著ルコ

トノナキニモアラス必竟人々ノ好ミニテ外

見ヲ飾ル佛蘭西人ナドハ割羽織ヲ著ル人多



丸九羽織

ビゼ子スコート

シ亜米利加人英吉利

●其形色々アレドモ

人等ハ都テ江戸子

一々ヨ、ニ記レ

ハダニテ衣服ニ

難レ○都テ

構ハズ襦バン

第九
割羽織

ハ、清浄ナ

センツルマノコト

レハ上着ハ何

ニテモ頻着スル

羽織ノ地合ハ羅

コトナク高貴ノ人

紗多レ夏分ハ

ニテモ九羽織ヲ着ル

カレミマナ



モノ少カラズ但シ海

ドイヘル縮ト毛ト

陸軍等ノ役人改夕

半分雜リニテ織

ル規式ノ場へ出

タルモノ又

ルトキハユニ

フヲルムト

同後ノ形

テコノ割羽織

ニ各々ノ格式ニ

ハ「ラ子ル」

由リ金銀ノ飾リヲ

亦ハ白地ノ

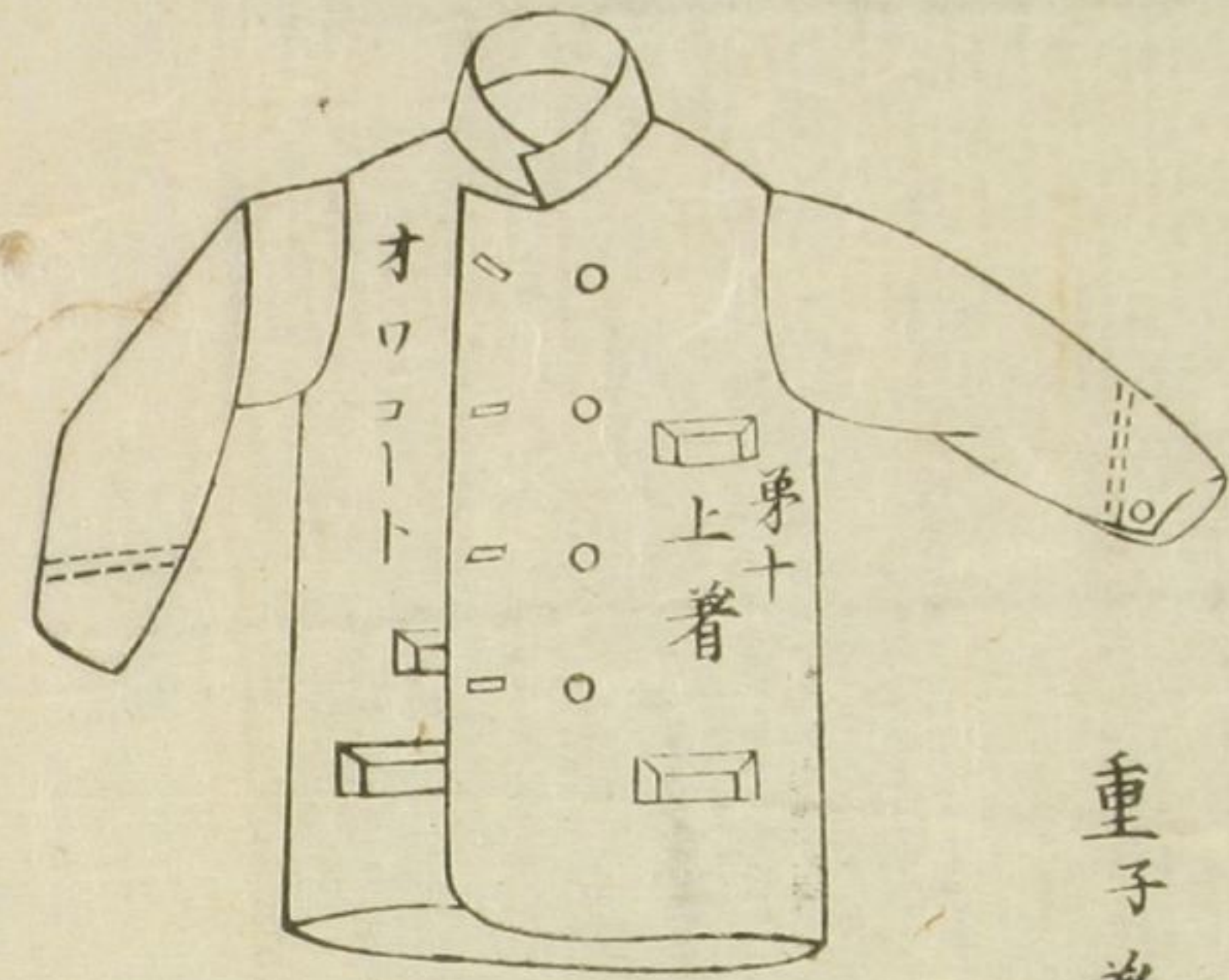
付タルモノヲ着用ス●

麻ヲ用ユ

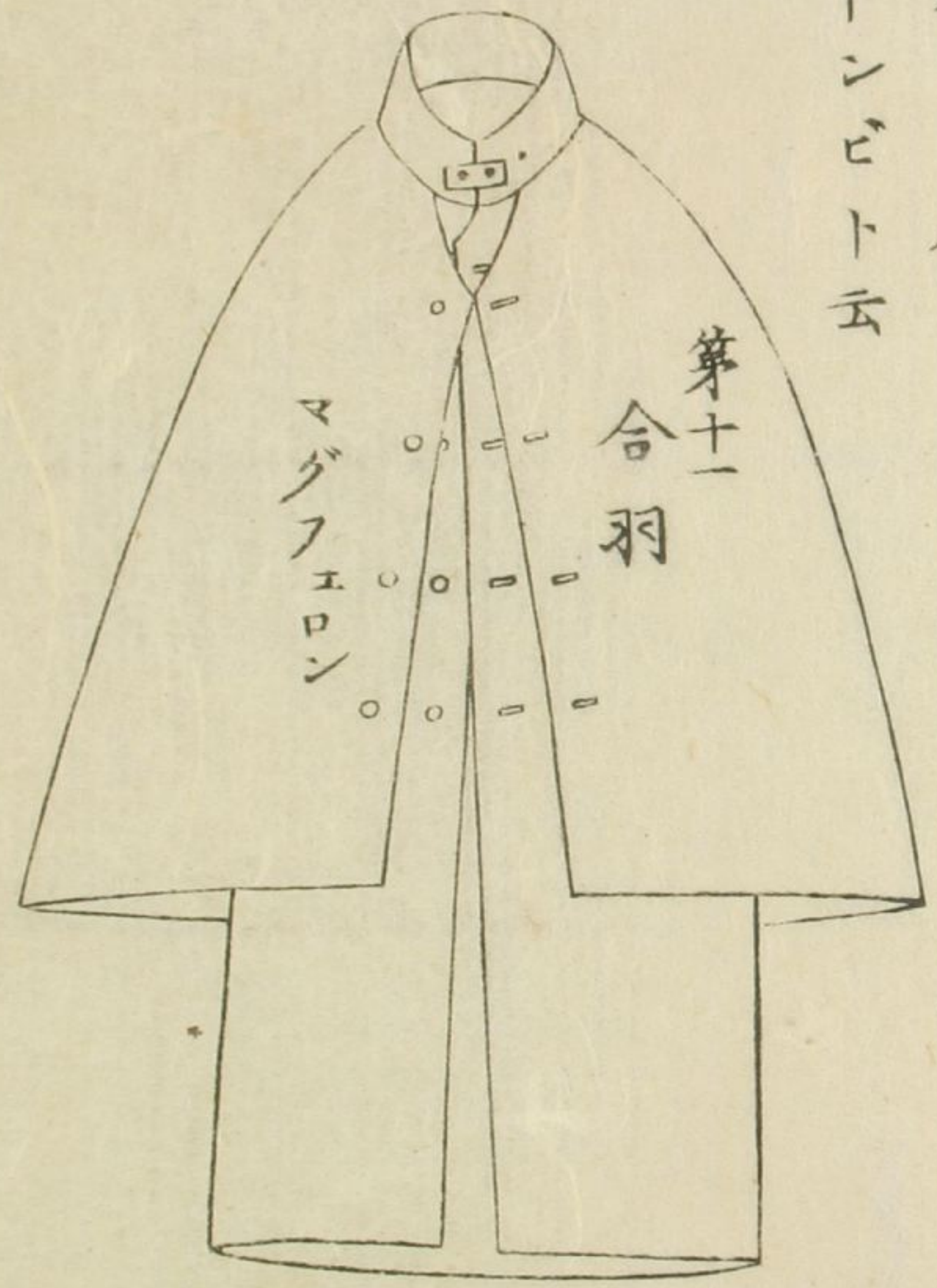


此二品ハ極寒ノトキ

重子著ニ用ユ

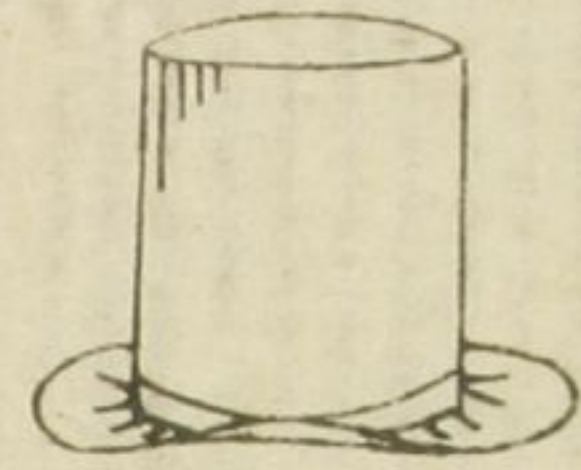


日本ニテ俗ニ
トンビト云



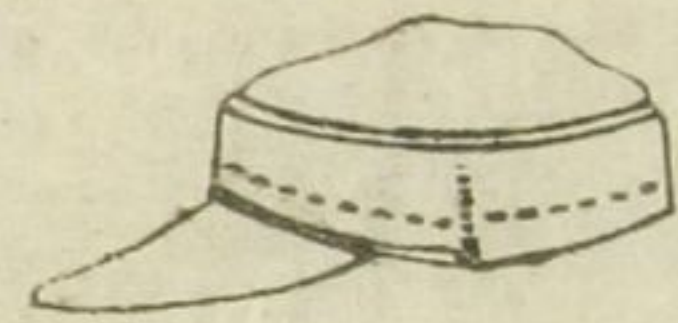
高帽子

ハット



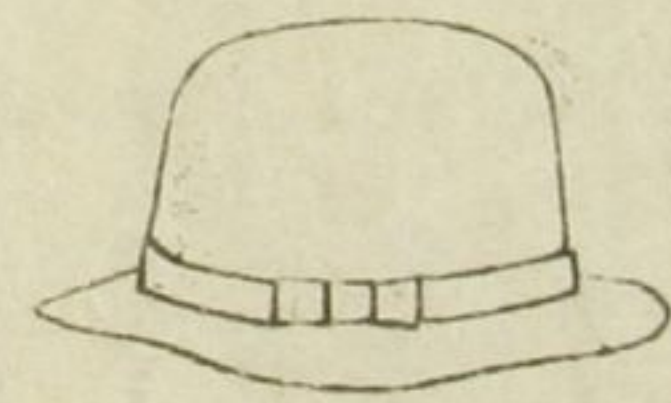
平帽子

ケップ



丸帽子

ハット



高帽子ハ身分アル人ノ冠ルモノニテ丸帽子ハ輕キ者ノ用ユルモノナリ但シ輕キ者ノ冠ル品トテ高貴ノ人ニテ用ヒザルニハアラズ

矢張身分アル人ノ自由ニテ丸羽織ヲ着用スルガ如シ唯全体ノ品物ヲイハハ高帽子ハ割羽織ニ對シ丸帽子ハ丸羽織ニ對スルモノト心得ヘシ平帽子ハ隨分平人モ用ユルコトアレドモ多クハ海陸軍其外士官ノ常用ナリ帽子ノ前ニ丈夫人ノ格式ニ由テ金銀ナドノ飾リヲ附ケ又ハ帽子ノ周圍ニ金銀ノ縁ヲ付タルモアリスク金銀ノ飾リアル帽子ヲ冠タル人ハ大抵彼國ニテ役筋ノ人ト心得ヘシ

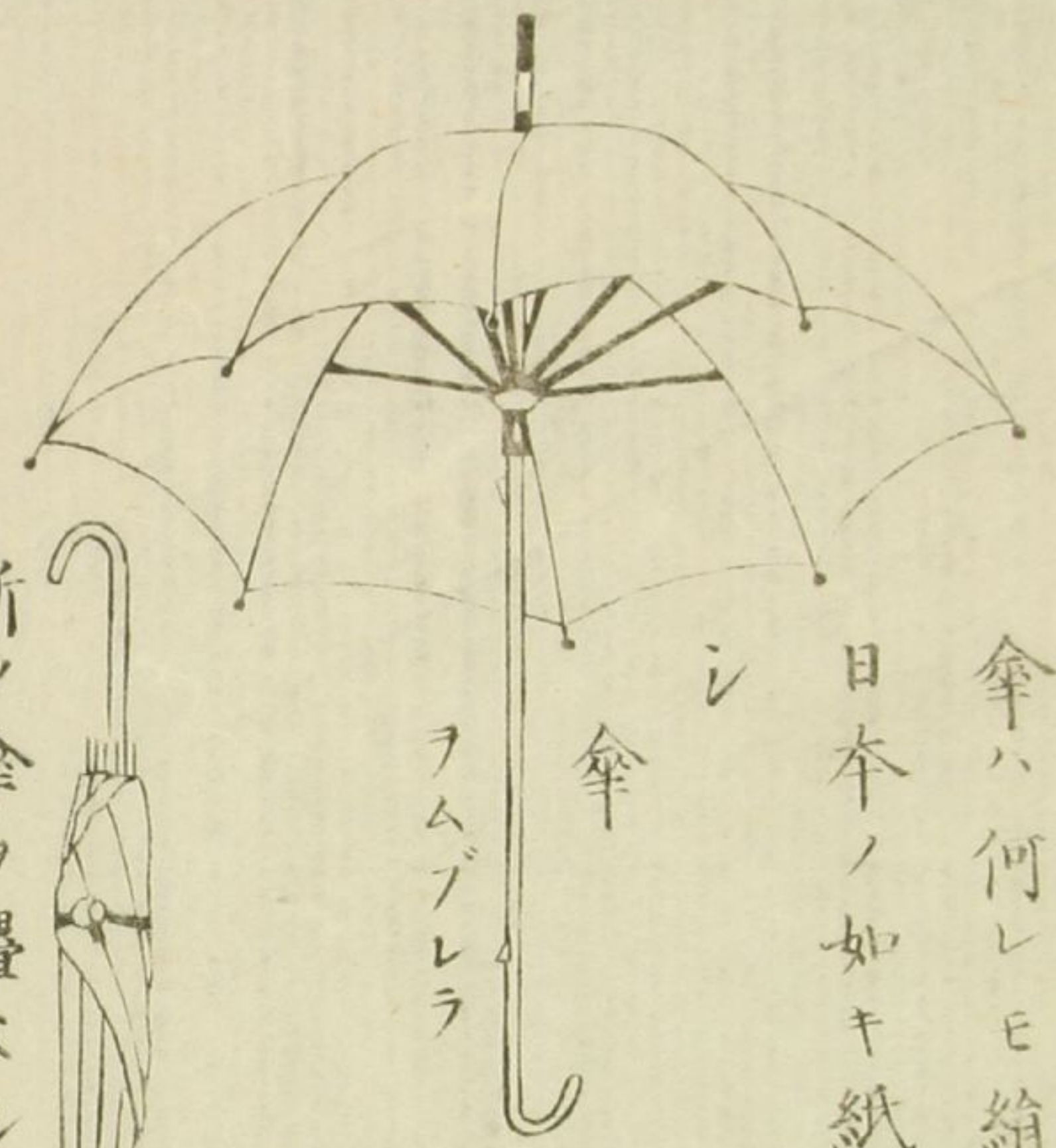
傘ハ何レモ絹布ニテ張り

日本ノ如キ紙張ノモノナ

シ

傘

フムブレラ



斯ク傘ヲ畳ミシトキハ杖ノ

代リニ用ユヘシ

右ハ西洋服ノ大畧ナリ着用ノ類ハ圖ノ番号
ニ從ヒ先ツ第一バンニ。ハダジュバンヲ着。其
次ニ下_タヒ、引其次ニ上襦_{じゆ}バント類々ニ番号
ヲ逐ヒ第九バンノ羽織ヲ着テト通り衣裳
ノ飾リツノワルナリ亦彼國ノ衣裳ニハ方々
ニカクシアルユヘリダヒノ其外チマハリノ
小道具ハ悉クカクシノウチニ納ルヘシ。襪_わへ
ハ手拭ハ羽ヲリノカクシニ入レ。金入レハ股
引ノカクシニ入レ。時斗ハ。チヨウキノカクシ

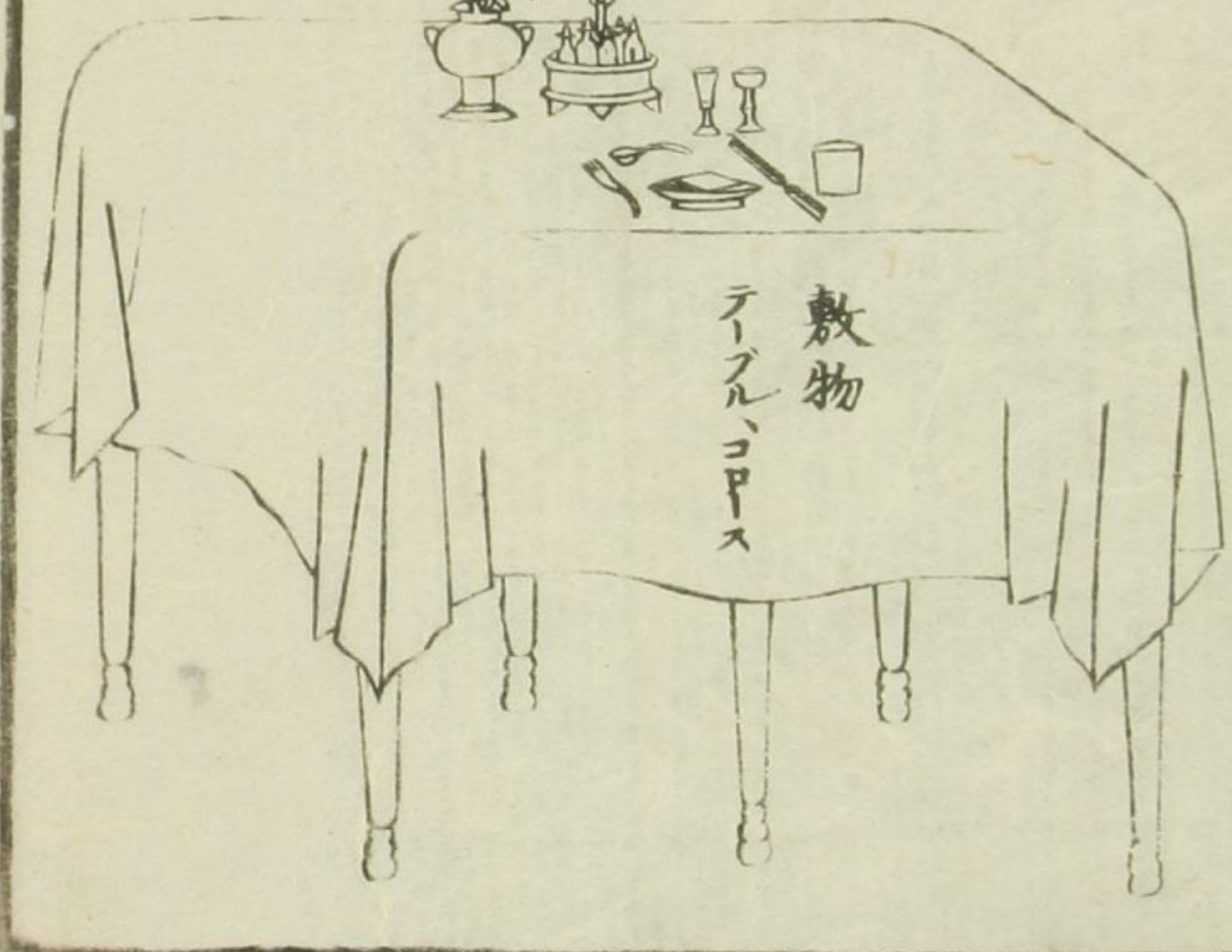
ニ入レテ鎖ヲボタンノ穴ニ掛ル等大抵丈夫
 ノ極リアリ○小便所へ行クトキハ上下トモ
 モ、引ノマヘノボタンヲ外シテ事済ムナレ
 ドモ大便ニハ先ツ此ボタンヲハグシ次ニズ
 ボンフリノボタンヲ前後トモニハズシテ大
 便終レハ又其ボタンヲ掛ルニウシロノボタ
 ンハ手ヲグリニテ掛ルコトユヘ衣服ニナレ
 ザル間ハ甚ダ不便利ナリ

食之部

食事臺

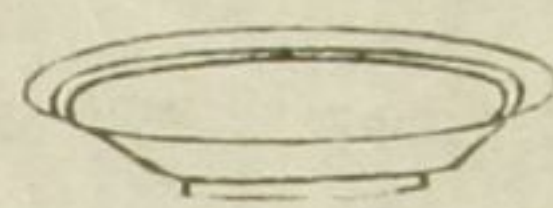
テーブル

西洋人ハ箸ヲ用
 ヒズ肉類其外ノ
 品々大切ニ切り
 テ平皿ニ盛り
 銘々ノ前ニ並ヘ
 タルヲ右ノ手ニ庖
 丁ヲ以テコレヲ小



サク切り左ノ手ノ肉^カ刺^レニ突掛テ食スルナリ
 庖丁ノ先ニ物ヲ載セテ直ニ口ヘ入ルハ甚
 不行義ノコト、セリ汁モノモ矢張平皿ニ入
 レ^カヒニテ吸フナリ汁モノ其外茶ヲ飲ムニモ
 口ニ音ヲサスルコトモ不行^カ免トス此圖ハ一
 人前ノ皿茶碗等ヲ並ヘタル所ナリ大勢會食
 スルトキハ一ツ食事臺ヘ二十人モ三十人モ
 席ヲ列ヌルコトアリ食事諸道具ノ名ハ次ニ
 記セリ

平皿
プレート



水呑
トムブラル



匕
テールスス



肉利
ニラサ
フリク



庖丁
ナイフ

花活
ウエーレス



グラス



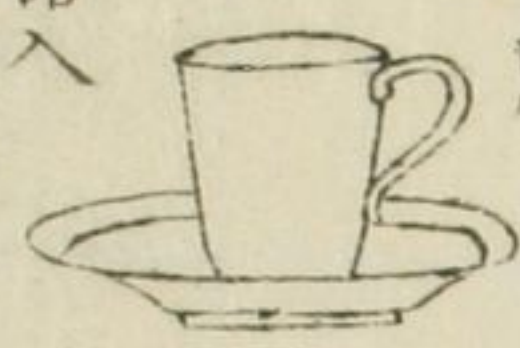
シャンパングラス



食事臺ノ上ニ置ク

平生ノ食事ニハ赤葡萄酒又ハ「シユリー」酒其外
ホルトワイン等ヲ用ユルナレドモ式日亦ハ

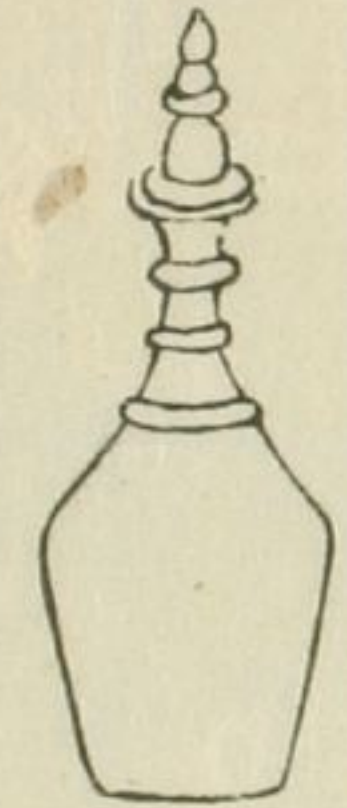
茶碗
チコップ
茶碗臺
ワチヒル



小口
ナースプーン



名酒瓶
ノ上ニ置ク



乳汁入
ミルキポット



砂糖入
レウガルベースン

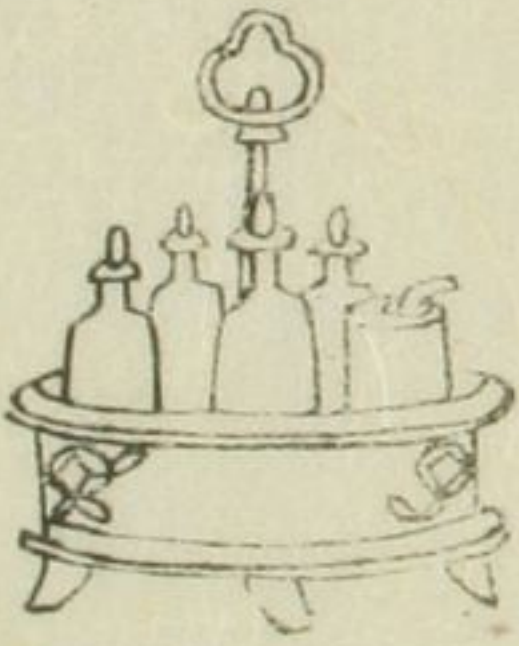


砂糖挾
トシグス



茶味入
カストルス

醬油
酢
油
荻子
胡椒



客ヲ饗應スル時ナドニハ「シャンパン」其外種々
 ノ美酒ヲ用ユ甘リキウールキ酒又ハ「ブランデー」杯云フ
 酒ハ食後ニ小キ「コップ」ニテ鳥渡一杯用ユル
 モノナリ又「ビイール」ト云フ酒アリ是ハ麥酒
 ニテ其味至テ苦ケレド胸膈キョウカクヲ閉ク為ニ妙ナ
 リ亦人々ノ性分ニ由リ其苦キ味ヲ賞翫シテ
 飲ム人モ多シ「ウイスキー」「ブランデー」ナド云
 ヘル酒ハ至テ強クシテ食事ノ時ニ用ヒズ多
 クハ下人ノ飲ムモノナリ

住之部

手水臺

ウツレ、スタンド

西洋人ノ寢間ニ

ハ手水鉢ノ臺ア

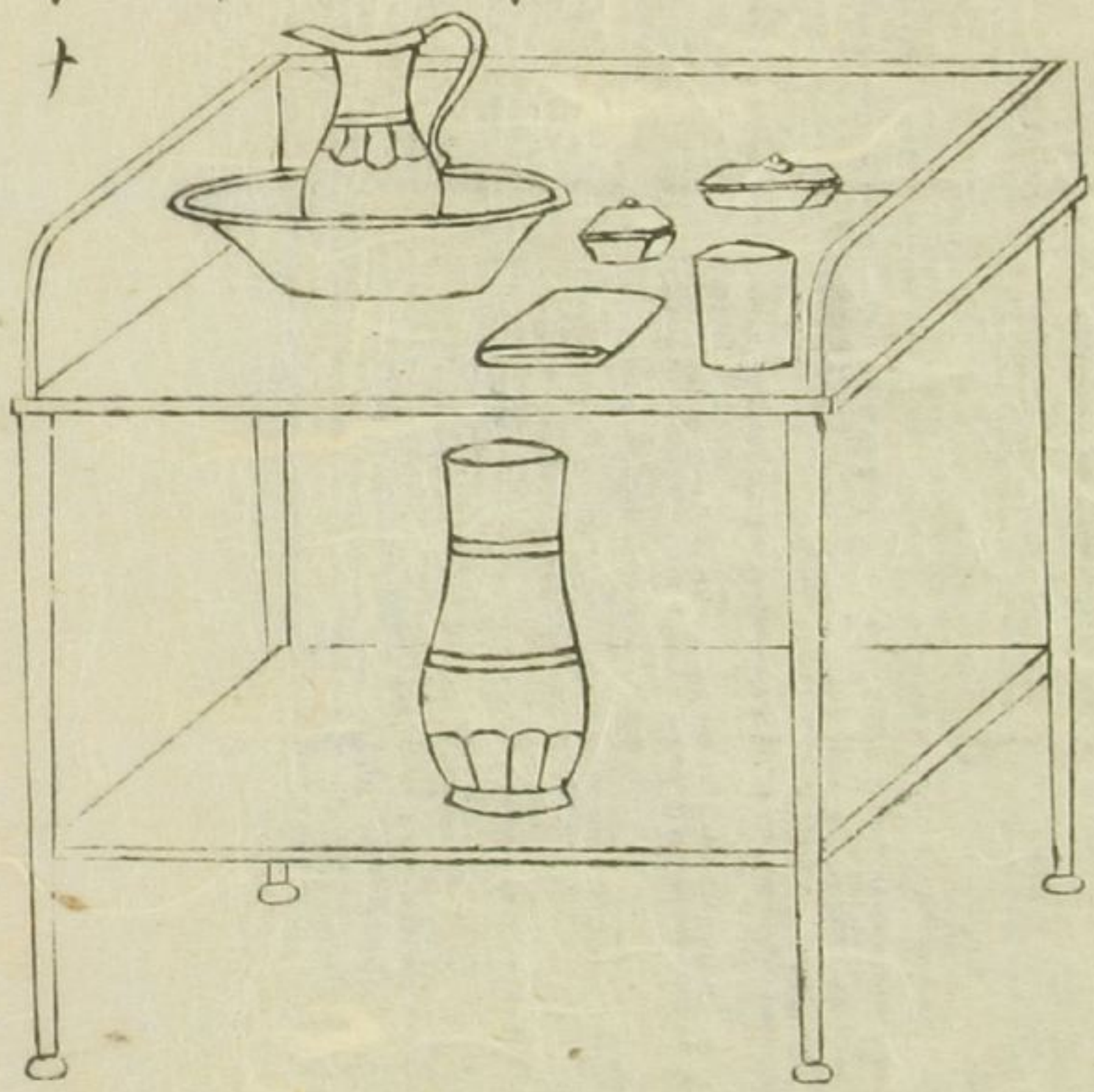
リテ毎朝漱^{ウカ}ヒ手

水ハ勿論食事ノ

前後ニモ手先キ

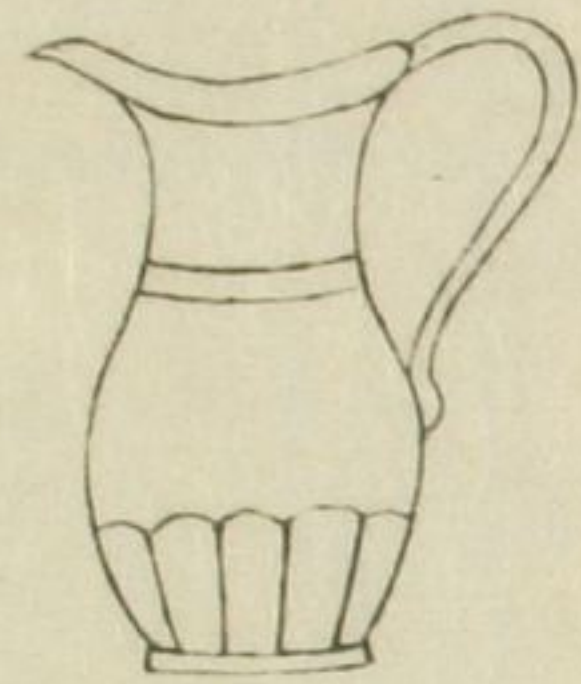
ト面ヲ洗フコトナ

リ此圖ニアル大鉢ハ瀬戸物ニテ金盥^{ウツレ}ノ用ヲ

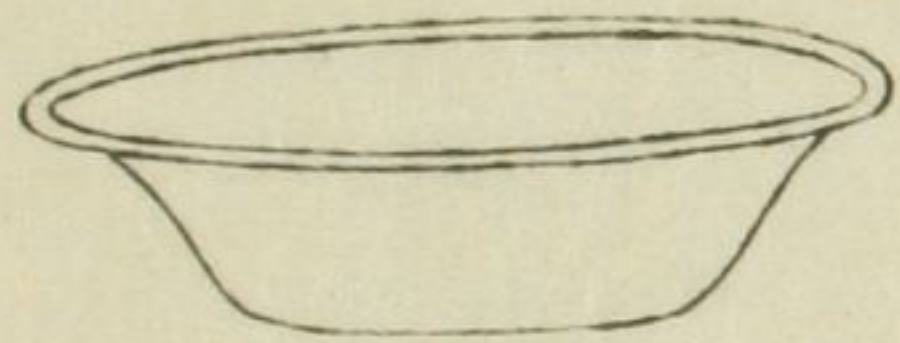


為スモノナリ臺ノ下ノ壺ハ水コボレナリ其
外小道具ノ圖解ハ左ニ記セ

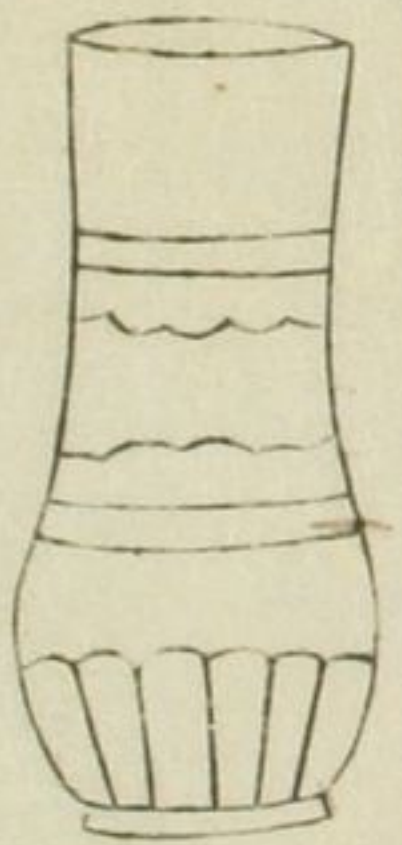
水指
ピツレアル



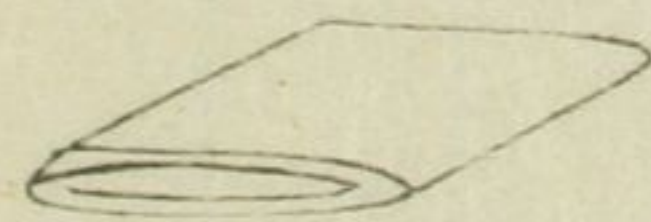
金盥
ベースン



水櫃^リ
シヨク



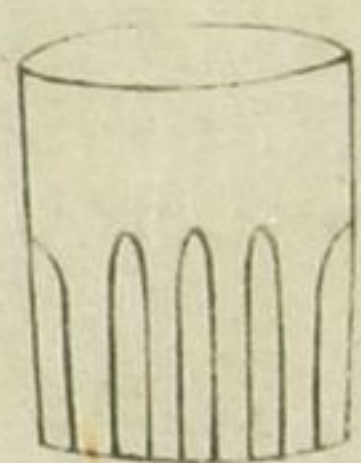
手拭
タウル
夫三尺
中二尺



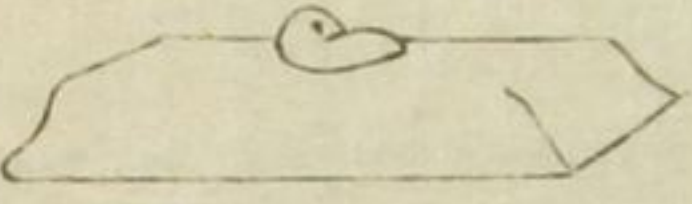
揚子

ハ

漱茶碗
トシブラル
水呑ニ同シ

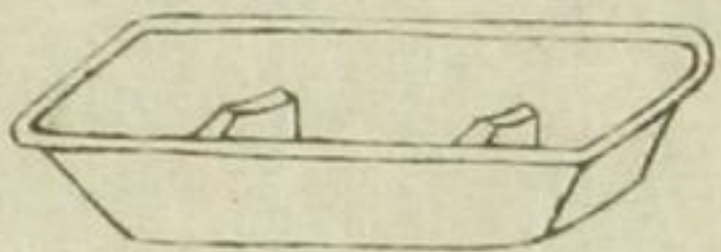


髪ナデハケ
ヘヤルゴロシ



巾着

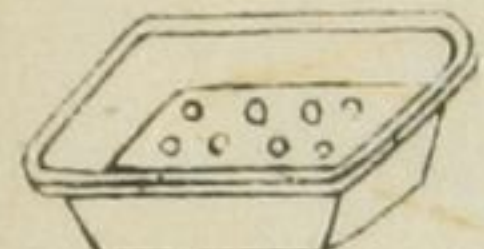
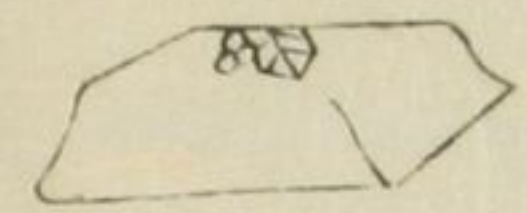
トシブラル



石
鱈

ハ

櫛
コム



此圖ハ簞子ノ

上ニ鏡ヲ載

セタル

所ナ

リ西

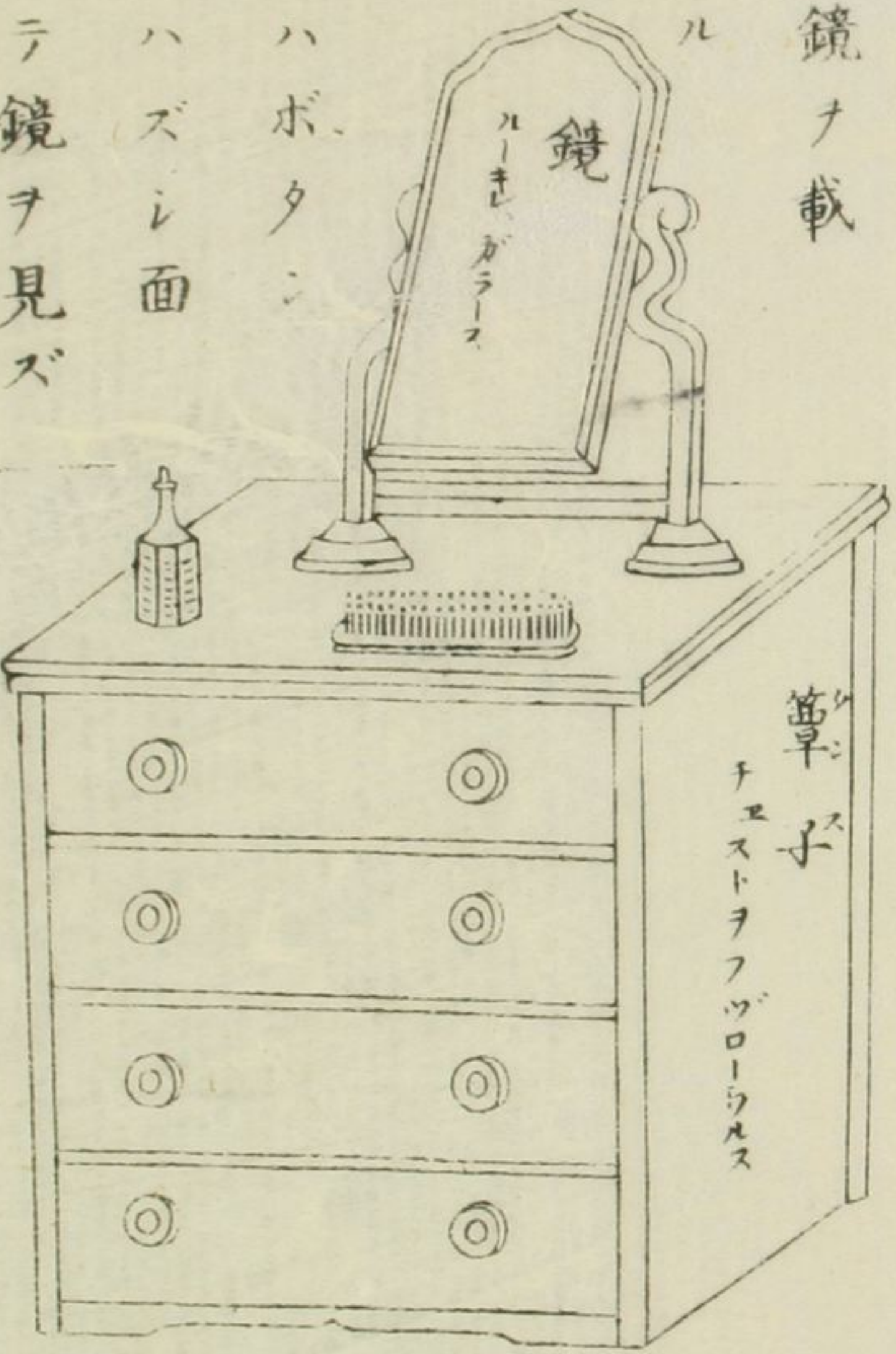
洋服ハボタシ

ハメハズレ面

例ニテ鏡ヲ見ズ

ニ手サグリニハ出

西洋衣食住



ヌメルリシダボツツル

十四

来ガタシ且朝夕髪モナデ付ルコトナルユヘ
 一ト間ノ内ニハカナラズ一ツ、鏡ノ用意アリ
 衣服ヲ着用シ終レハ香水ヲ襟ノ廻リニフリ
 カケテ不浄ヲ拂フカビミノ左ノ股ニアルモ
 ノハ香水ノビンナリ鏡ノ前ニアルモノハ衣
 裳ノチリヲ拂フハケナリ其名ヲブロントイ
 フ都テ西洋人ハ日本人ヨリモ身ノ廻リヲキ
 レイニスル風俗ナリ

西洋ノ家ニハ畳ナク

板張ノ上ニ

粗末ノ所 椅子イス

ハゴザラ ナエマル

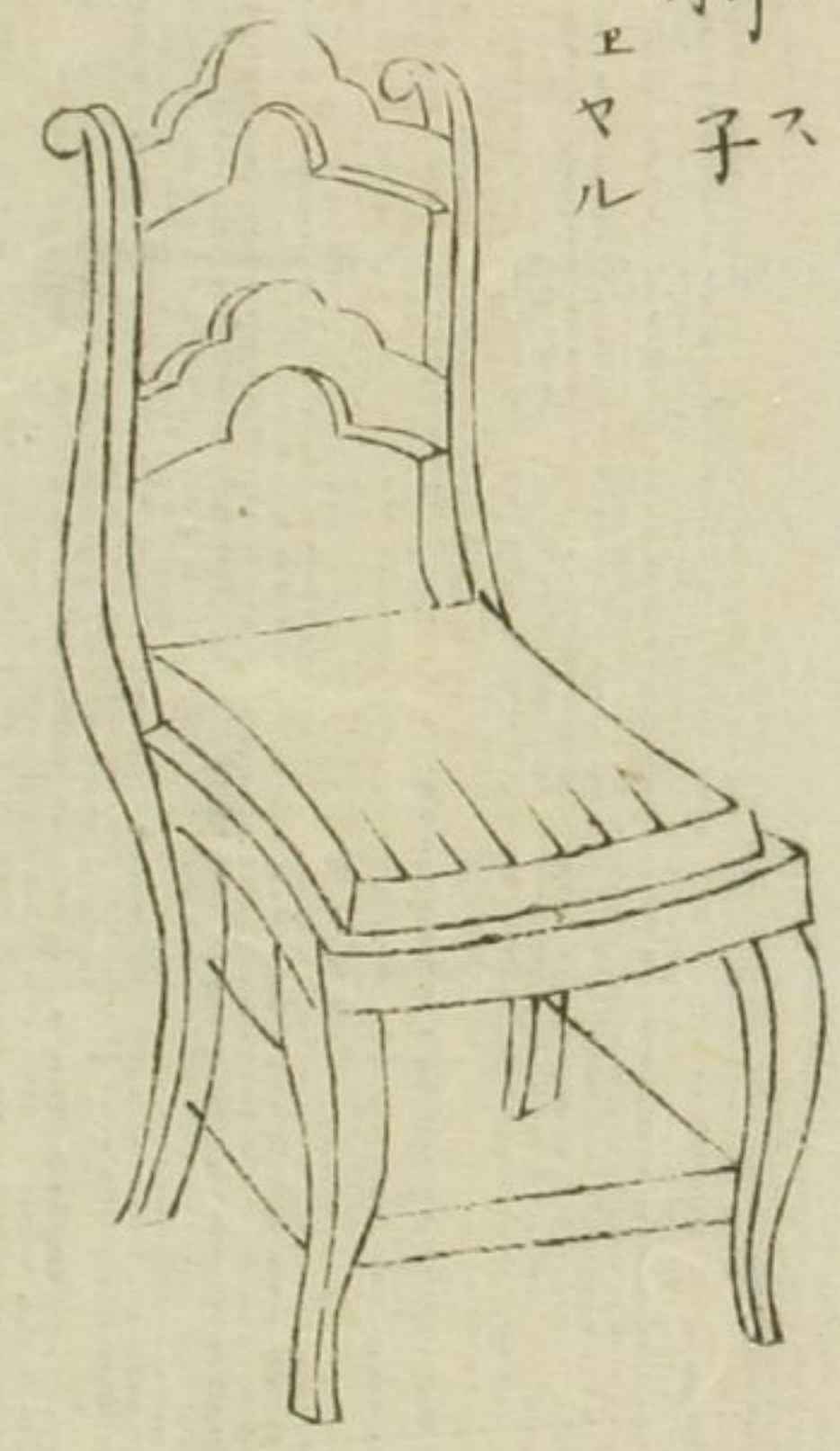
レキ上ノ間

ニハ、ダンツフ

毛セン其外キ

レイナルヲリモノヲ

レキテ此上ニ椅子ヲ並ヘテコレニ腰ヲ掛ル

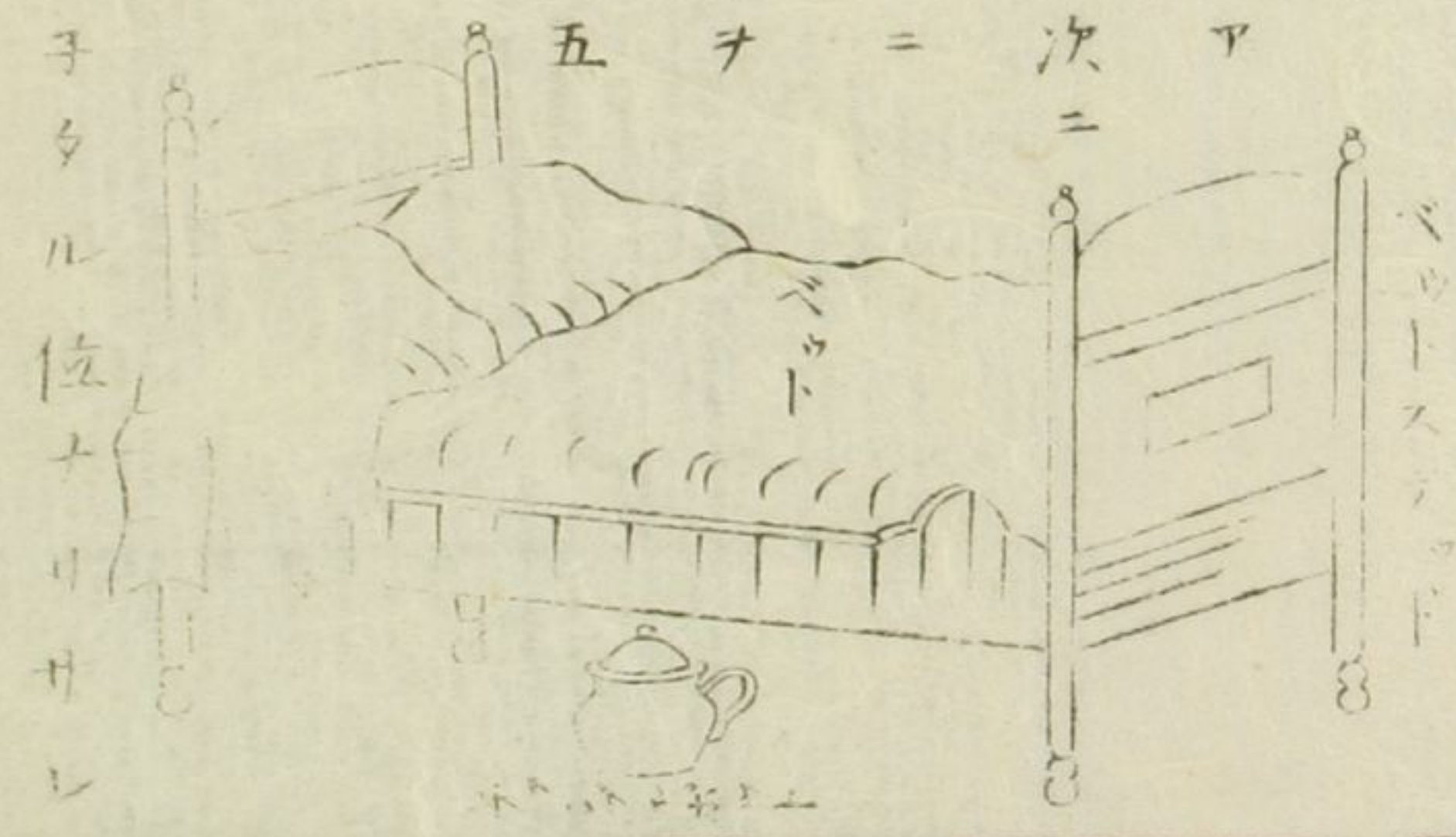


西洋ノ家ニ

一五

風俗ナリ且又坐敷ノ内へ直ニスハルコトナ
 キユへ往來ヲ步行セシ番ノ終ニテ内ニ這入
 リ差構ヒナシ尤家ノ入口ニムシロノ如キモ
 ノアリテコレニテ番ノ泥ヲフキトルユへ敷
 物ノヨゴル、コトナシ日本へ渡來セシ西洋
 人等日本人ノ家ニ來ルトキ番ノ終ニテ畳ニ
 上リ日本人ノ目ニテ見レハ土足ニテ失禮ナ
 ド、思ハルハケレドモ彼國ノ風俗ナルユへ
 勸無ス、キ、トナリ

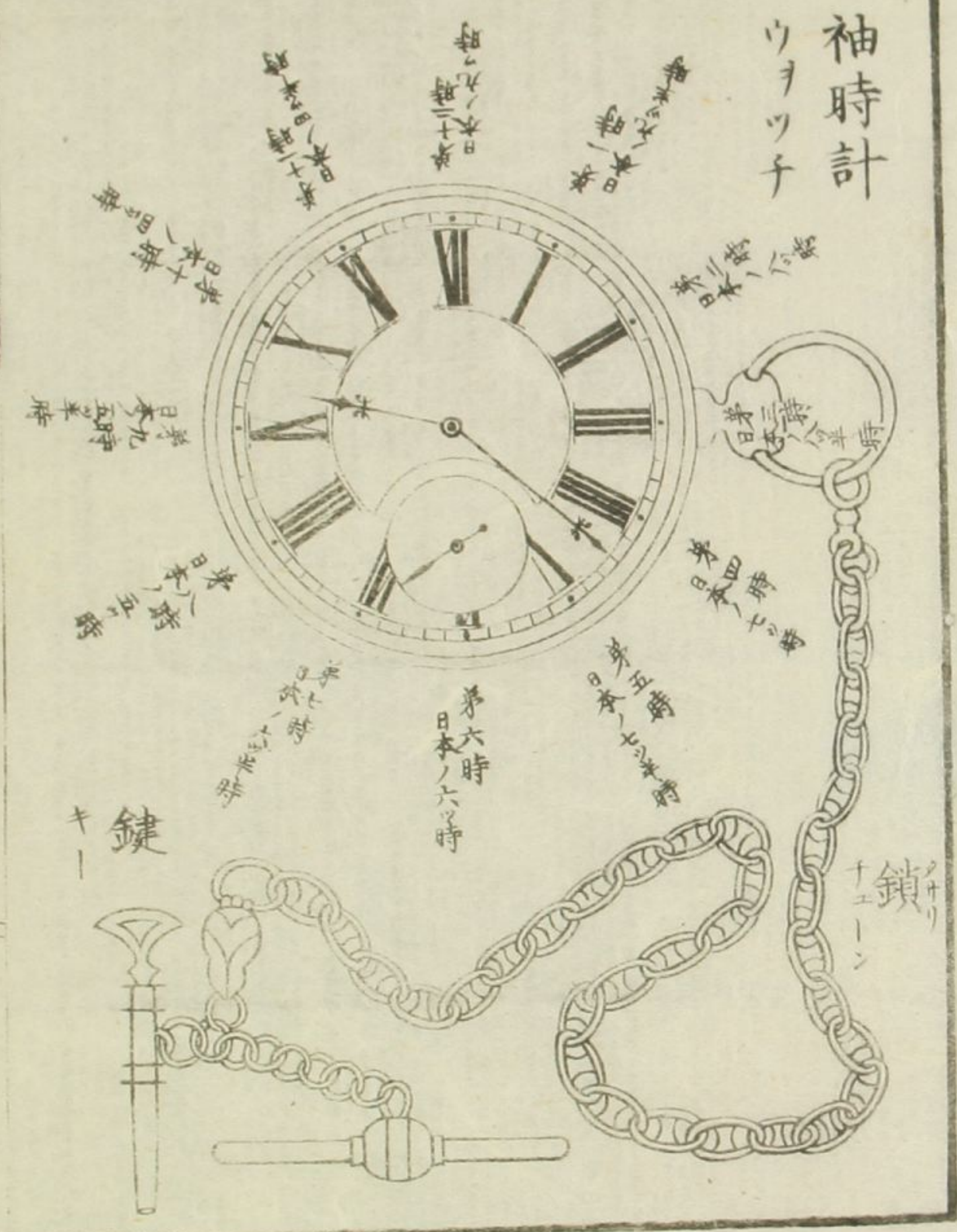
寢床ハ巾三尺長キ六尺余
 二人寢ナレハ巾四尺余モア
 リ敷蒲團ハ一番下ニ藁其次ニ
 棉其次ニ毛ノ蒲團ト順々ニ
 三枚モ敷キ上ニ晒ノ白布ヲ
 覆ヒ其厚サ三枚ニテ一尺五
 寸モアルベシ上ニ掛ル夜
 具ハ甚夕薄シ晒ノ布ニ敷
 ニ「ブランケット」ノ二枚モ重子タル位ナリサレ



ドモ敷蒲團ノ敷多ク且柔ラカニシテ人ノ体
 ハ其中ニ落込ム程ノコトナレハ寒中ニテモ
 寒ムキコトナシ都テ夜具ノ上下ニ覆フモノ
 ハ晒ノ白木棉ニテ雪ノ如シ冬ノシラミ箕ノ
 登ナド探シテモ居ス誠ニ清淨潔白ナリ○床
 ノ下ニアル蓋物ノ如キモノハ、レビンナリ彼
 國ノ寢床ノ下ニハ必ス一ツ、用意アリテ始
 テ西洋へ行キシ人ナド此蓋物ニテ間違ノ出
 来ルコト少カラズ心得ヘシ

袖時計

ウヲツチ



時計ハ衣食住ヨリ外ノコトナレドモ西洋ニ
 テハ時ヲ測ル^{ハカ}ニ寺ノ鐘ナドヲ当^{アテ}ニセズ上下
 貴賤トモ銘々時計ヲ所持スル風倍ニテ近來
 ハ亦日本ニモ追々舶來ノ時計流行セリ然ル
 ニ不^レ按内ノ人ハ時計ヲ所持シテ其見様ヲ知
 ラザルモノモ少ナカラズ故ニ今此卷末衣食
 住ノ序ニ時計ノ見様ヲ記スコト左ノ如シ
 西洋ニテハ一昼夜ヲ二十四時ニ分ツユヘ彼
 ノ一時ハ日本ノ半時ナリ其一時ヲ六十分

テコレヲ一分時ト云フ亦コノ一分時ヲ
 六十ニ分テ一抄時ト云フ一抄時ハ大抵
 脈ノ一動ニ同レ扱時計ノ盤面ヲ十二時ニ分
 チ短針ハ一昼夜ニ二度ツ、廻リ長針ハ二十
 四度ツ、廻ル仕掛ニセリ先ツ正午亦ハ夜半
 第十二時ヲ本トシコノ時ニハ短針モ長針モ
 正シク重リ合テ第十二時ノ所ヲ指スコレヨ
 リ段々ニ右ノ方ヘ廻リ短針ノ第一時ヲ指ス
 トキハ長針ハ盤面ヲ一周シテ六十分時ヲ過

キ又十二時ノ處ニ戻レリコレヨリ亦次第ニ
進ミ短針ノ第一時ト第二時トノ間ニ来ルト
キハ長針モ盤面ヲ半分廻リテ三十分時ヲ過
キ丁度第六時ノ所ニ来レリ故ニ時計ヲ見テ
時ヲ知ルニハ先ツ短針ノ指ス所ヲ見テ次ニ
長針ノ居所ヲ見ルヘシ譬ヘハ短針ノ指ス所
第九時ト第十時トノ間ニシテ長針ノ指ス所
第二時ノ處ナレハ第九時過キ十分時ナリト
云フ即チ其十分時トハ長針ノ第十二時ノ處

ヲ去ルコト十分時ト云コトナリ亦此短針第
九時ト第十時トノ間ヲ半過ナクキテ第十時ノ方
ニ近寄り長針モ進テ第八時ノ所ニ来レハコ
レヲ第十時前二十分時ト云フ即チ其十分
時トハ長針ノ第十二時ノ所ニ至ル迄二十分
時アルト云コトニテ何レモ長針ハ第十二時
ヲ本ニシ盤面ニアル六十ノ点ヲ計ヘテ何時
何分時ト云フコトヲ知ルヘシ此圖ハ第九時
過キ二十分時ノ處ナリセカンドノ針ハ一

分時ノ間ニ一廻リスルモノナリ但シ時ヲ見
ルニハセカンドハ計ヘズ

西洋衣食住終

